



「プロフェッショナル～仕事の流儀」「世界一受けたい授業」等
テレビ出演多数！脳科学者・茂木健一郎さん来たる！



荒生田塾

第二回 荒生田塾講演会

「生きる意味を見いだすために
—脳科学からの洞察—」

12月13日(土)

午後3時より 茂木健一郎氏講演会

※講演の後、奥田知志牧師との対談

12月14日(日)

午前10時半より 特別伝道集会

講師：奥田知志牧師(当教会牧師)

※いずれも入場無料。駐車場なし。

もぎ けんいちろう
茂木 健一郎

脳科学者。NHK「プロフェッショナル仕事の流儀」初代司会者。『「助けて」と言える国へ』(奥田牧師との共著)他、著書多数。



荒生田塾とは、この時代において「人は何のために生きるのか」を問い直す場所としての、現代における寺子屋です。「国家」「社会」「個人」のあり方が急激に変わる今、私達はいかに生きるべきか！街場に生きる人達との間で、共に語り合う場所を「軒の教会」に作りました。

第2回目の講師である茂木健一郎さんは、プロフェッショナルの番組以来、奥田牧師と親交を続け、東八幡キリスト教会と一緒に、ホームレス支援、NPO『抱僕』の活動を支援してくれており、お二人の共著『助けてと言える国へ』の印税もその支援となっています。テレビで拝見する茂木さんは、バラエティ的な一面が多いと思いますが、twitterでは、鋭く激しく社会的な問題を批評し、朝の連続ツイートは多くの政治家や文化人がその日に話題に取り上げるほどの影響力です。また、文化的な教養にも溢れ、東京芸術大学での講師、クラシック音楽に関する著書、美術誌への連載など、本当にあらゆる分野で活躍されています。この、どこまでも躍動感溢れる茂木さんが、荒生田塾でどんな「生きる」を語ってくれるのか？本当に楽しみです。講演会では、茂木さんが愛読して止まない夏目漱石の話や、小林秀雄の思想など、ちょっと哲学的な話も拝聴できたらと、個人的には楽しみにしています。【荒生田塾長 石山輝久】



〒805-0015 北九州市八幡東区荒生田2丁目1番40

電話/FAX (093) 651-6669

Email: higashiyahata.ch.1955@nifty.com

牧師：奥田 知志 石橋 誠一

協働牧師：藤田 英彦 森松 長生 牧野 新

特別コンサート

COMING SOON

第三回講演会

軒の教会で奏でる夕暮れコンサート

1/17(土) 18:30~

キリスト教講演会：奥田牧師

1/18(日) 10:30~

響ホール室内合奏団

人は何のために生きるのか



2/28(土)

15:00~

3/1(日)

10:30~

かん さんじゅん

姜 尚中

定例集会

- ・主日礼拝(一般の部)
毎週日曜午前10時30分より
- ・子ども礼拝(小学生以下の部)
毎週日曜日午前9時30分
- ・少年少女会(中高生会)
毎週日曜日礼拝後
- ・聖書の学びとお祈りの会
夜の部 毎週水曜日午後7時30分
昼の部 毎月第3水曜日午後1時

牧師へのご相談 随時受付中!

牧師へのご相談を受け付けています。お困りのこと、誰にも相談できないこと、何でもかまいません。一人で悩まずにご相談ください。ともかく一緒に悩みましょう！牧師には守秘義務がありますので安心して相談ください。

電話093-651-6669

私の悩みは、しばしばテレビのリモコンが見当たらなくなることに。本当に不思議だ。あんな大きな物が「失せる」のか。だから常に探している。テレビを見ているよりもリモコンを探している時間の方が長いように感じるほどで、自分でもあきれれる。日頃は、あまりテレビを見ないので、たまに見たいと思うと見当たらないものだから、一層イライラするのだ。

しかも、なぜだか「おかあさん(妻)」が「失せもの」を探し始めると、どこからともなく出てくる。これまた不思議でなんとも言えない。「ひよことしておかあさんが隠しているのでは・・・」などと要らぬ嫌疑をかけたりするが、そんなはずはない。でも、正直見つけてもらおうと助かる。ともかく感謝する。うちのかみさんは偉いなあと思う。

ルカ福音書の一章にイエスのこんなたとえ話がある。「あなたがたのうち、百匹の羊を持つている者がいたとする。その一匹がいなくなったら、九十九匹を野原に残しておいて、いなくなった一匹を見つかるまでは探し歩かないであろうか。そして見つけたら、喜んでそれを自分の肩に乗せ、家に帰ってきて友人や隣り人を呼び集め、『わたしと一緒に喜んでください。いなくなった羊を見つけたから』と言うであろう」。ここに登場する羊飼いは、迷い出た羊を必ず見つけ出すというのだ。「一匹ぐらい、あきらめよう」などとは決して思わない。絶対探し出す。それが羊飼いの使命であり約束なのだ。しかし、実際には、こんな羊飼いはいない。九十九匹を野原に残して一匹のために捜しに出かけるというのだから。しかし、これはイエス独特の譬え話である。イエスが、常識的には考えられないことを言うので、人々には一層印象深く伝わったのだろう。

譬えにおいて、羊飼いはイエス・キリスト、あるいは神を意味する。羊は私たち人間。イエスが言いたいのは、私たちが一人でも迷い出たら、神は決して見捨てず、あきらめず、見つけ出すまで探し続けて下さるということ。私たちは、迷子のまま終わらない、必ず連れ戻される。それが救い主(神)なのだ。イエスは言いたい。

「言は肉体となり、わたしたちのうちに宿った」。ヨハネ福音書(一章)は、クリスマス(救い主の誕生)をこのように告げた。神の言葉が肉体をもって私たちの内に宿った。それがイエス・キリストなのだ。ここにおける「内に宿る」は憑依(ヒョウイ・とりつく)ということではない。そもそも「宿る」は、言語では「幕屋を張った」という意味。すなわち「テントを張った」ということらしい。救い主は立派な王宮ではなく、テント暮らしを地上で始める。それはまさに、羊飼いの姿であった。羊飼いは羊と共に野を旅しテントに暮らす。もし羊に何かあった時、すぐに飛び出し対応するためだ。羊飼いはサンダルを履いたまま、あるいは杖を持ったまま眠る。いや聖書には「神は」まどろむこともなく、眠ることもない(詩篇一一二)とさえ書かれている。

私たち人間は、そんなわけにはいかない。寝てしまおう。くつろぎたいし、安定した住処を求める。でも救い主はテントに暮らす。そんな羊飼いがいてくれるから私(羊)たちは安心して眠ることができるのだ。

ずいぶん冷たい時代となった。隣りの人がどうなっているかと、お構いなしの時代。「迷っている人」がいても、それは「自己責任であり、本人が悪い」と突き放す。しかし、そんな現実だからこそ、心からクリスマスを祝いたい。救い主は羊飼いとしてみんなを救ったのだ。羊飼いは、今日もテントで暮らしておられる。安住されない。それは、どんな時にも羊のために駆けつけて、迷いだした羊を探し出す。あなたを連れもどすためだ。誰かを愛するとはそれほど厳しいことなのだ。救い主は、あなたを決してあきらめない。あなたを探しだされる。あなたを必要とされている。救い主は、今日もテントの中で、愛する羊を——そう！あなたを見守っていてくださる。

クリスマス・新年のご案内

皆さまクリスマスおめでとうございます！

お待たせしました！今年の東八幡教会は、新しい教会堂での初めてのクリスマスを迎えます。共にイエス様のご降誕を喜びましょう♪

クリスマスを教会で過ごしてみませんか？皆さまのお越しをお待ちしています！

12月21日(日) 10時30分～

—クリスマス主日礼拝・祝会—

礼拝の後に食事を持ち寄って祝会を行います！
(食事代 500円) プレゼント交換あり！



12月24日(水) 19時30分～

—燭火礼拝(キャンドルサービス)—

イエスキリストのご降誕を祝い、ろうそくに火を灯して礼拝を行います。どうぞお越しく下さい！



1月1日(木) 11時～

—元旦礼拝—

新年をみんなでお祝いしよう！
新しい一年も教会から始めよう！

A HAPPY
NEW YEAR